

工 事 成 績 採 点 表

完成年度		工事番号																													
事務所	発注業種			契約金額（最終）										円																	
工事名				契約工期										完成年月日																	
工事場所														完成検査年月日																	
受注者名																															
考 査 項 目	第一次評定者 (監督職員)					第二次評定者 (担当課長・主任等)					第三次評定者(中間検査等) (検査職員)					第三次評定者(完成検査) (検査職員)															
	評定年月日					評定年月日					評定年月日					評定年月日															
	職・氏名					職・氏名					職・氏名					職・氏名															
項 目	細 別	a	b	c	d	e	a	a'	b	b'	c	d	e	a	a'	b	b'	c	d	e	a	a'	b	b'	c	d	e				
1. 施工体制	I. 施工体制一般	+1.0	+0.5	0	-5.0	#####																									
	II. 配置技術者	+3.0	+1.5	0	-5.0	#####																									
2. 施工状況	I. 施工管理	+4.0	+2.0	0	-5.0	#####								+5.0		+2.5			0	-7.5	-15.0	+5.0		+2.5			0	-7.5	-15.0		
	II. 工程管理	+4.0	+2.0	0	-5.0	#####	+2.0		+1.0		0	-7.5	-15.0																		
	III. 安全対策	+5.0	+2.5	0	-5.0	#####	+3.0		+1.5		0	-7.5	-15.0																		
	IV. 対外関係	+2.0	+1.0	0	-2.5	-5.0																									
3. 出来形及び出来ばえ	I. 出来形	+4.0	+2.0	0	-2.5	-5.0								+10.0	+7.5	+5.0	+2.5	0	#####	-20.0	+10.0	+7.5	+5.0	+2.5	0	#####	-20.0				
	II. 品質	+5.0	+2.5	0	-2.5	-5.0								+15.0	+12.0	+7.5	+4.0	0	#####	-25.0	+15.0	+12.0	+7.5	+4.0	0	#####	-25.0				
	III. 出来ばえ													+5.0		+2.5			0	-5.0	+5.0		+2.5			0	-5.0				
4. 工事特性	I. 施工条件等への対応等	+20.0 ~ 0																													
5. 創意工夫	I. 創意工夫※3	+7.0 ~ 0																													
6. 社会性等	I. 地域への貢献等						+10.0	+7.5	+5.0	+2.5	0																				
加減点合計(1+2+3+4+5+6)		点					点					点					点														
評定点(65点±加減点合計)※		①					②					③					④														
評定点計		点					点					点					点														
		○中間検査があった場合：(①) 点×0.4+ 点×0.2+③ 点×0.2+④ 点×0.2) = 点 但し、③は中間検査が2回以上の場合は平均値 ○中間検査がなかった場合：(①) 点×0.4+0.0 点×0.2+④ 点×0.4) = 点																													
7. 法令遵守等 ※7						点																									
評定点合計 ※8		点					点					点					点														
8. 総合評価技術提案	技術提案履行確認 ※9						履行 不履行 対象外																								
所 見 ※5		(第一次評定者)										(第二次評定者)										(第三次評定者)									

※1 65点 + 1.~3.の評定(加減点合計) + 4.~6.の評定(加減点合計) = 評定点
 各評定点(①~④)は小数第1位まで記入する。
 ※2 工事特性は、当該工事特有の難度高い条件(構造物の特殊性、特殊な技術、都市部等の作業環境・社会条件、厳しい自然・地盤条件、長期工事における安全確保等)に対して適切に対応したことを評価する項目である。
 評価に際しては、第一次評定者からの報告を受けて第二次評定者が評価するものとする。
 ※3 創意工夫は、工事特性のような難度を伴わない工事において、企業の工夫やノウハウにより特筆すべき便益があった場合に評価する項目である。
 ※4 4.、5.、6.は加減点評価のみとする。また、法令遵守等は、減点評価のみとする。
 ※5 所見は、各評定者の配点が80点以上もしくは60点以下の評価について記入を原則とする。
 ※6 各検査項目ごとの採点は、検査項目別運用表によるものとし、第三次評定者の評価に先立ち、第一次、第二次評定者が行う。
 ※7 法令遵守等の評価は、第二次評定者が行う。
 ※8 評定点合計は、四捨五入により整数とする。
 ※9 総合評価技術提案は、技術提案の履行が確認できない場合は、『不履行』を選択する。

細目別評定採点表

項目	細別	①第一次評定者	②第二次評定者	③第三次評定者 (中間検査等(平均値))	④第三次評定者(完成)	細目別評定点	得点割合
1. 施工体制	I. 施工体制一般	$() \times 0.4 + 2.9 =$ 点				3.3点	
	II. 配置技術者	$() \times 0.4 + 2.9 =$ 点				4.1点	
2. 施工状況	I. 施工管理	$() \times 0.4 + 2.9 =$ 点		$() \times 0.4 + 6.5 =$ 点 複数回の場合は平均値	$() \times 0.4 + 6.5 =$ 点	13点	
	II. 工程管理	$() \times 0.4 + 2.9 =$ 点	$() \times 0.2 + 3.2 =$ 点			8.1点	
	III. 安全対策	$() \times 0.4 + 2.9 =$ 点	$() \times 0.2 + 3.3 =$ 点			8.8点	
	IV. 対外関係	$() \times 0.4 + 2.9 =$ 点				3.7点	
3. 出来形及び 出来ばえ	I. 出来形	$() \times 0.4 + 2.8 =$ 点		$() \times 0.4 + 6.5 =$ 点 複数回の場合は平均値	$() \times 0.4 + 6.5 =$ 点	14.9点	
	II. 品質	$() \times 0.4 + 2.9 =$ 点		$() \times 0.4 + 6.5 =$ 点 複数回の場合は平均値	$() \times 0.4 + 6.5 =$ 点	17.4点	
	III. 出来ばえ			$() \times 0.4 + 6.5 =$ 点 複数回の場合は平均値	$() \times 0.4 + 6.5 =$ 点	8.5点	
4. 工事特性	I. 施工条件等への 対応		$() \times 0.2 + 3.3 =$ 点			7.3点	
5. 創意工夫	I. 創意工夫	$() \times 0.4 + 2.9 =$ 点				5.7点	
6. 社会性等	I. 地域への貢献等		$() \times 0.2 + 3.2 =$ 点			5.2点	
7. 法令遵守等			$() \times 1.0 =$ 点				
						評定点合計	100点
8. 総合評価 技術提案	技術提案履行確認		履行 不履行 対象外				

- * 中間検査・一部完成検査があった場合(中間検査等という) $(①+②+③ \times 0.5 + ④ \times 0.5) =$ 細目別評定点 (中間検査等が二回以上の場合は③を平均する)
- * 中間検査等がなかった場合 $(①+②+④) =$ 細目別評定点
- * 得点割合は、細目別評定点の合計に対する得点の割合を百分率で示す。
- * 総合評価技術提案は、技術提案の履行が確認できない場合は、「不履行」を選択する。

創意工夫・社会性・工事特性等説明書

工事名		受注者名	
項目	種別	細目	内容

1. 創意工夫・社会性等は、実施内容の妥当性確認のため、実施に先立ち「工事打合せ簿」で監督員と協議を行うこと。
2. 項目毎に、様式3-乙「創意工夫・社会性等・工事特性説明資料」を作成すること。

創意工夫・社会性等・工事特性説明資料

工 事 名					
受 注 者 名				公表の可否*	可
項 目		種 別		細 目	
内 容					
<p>(説 明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 説明資料は、内容がわかるように図・写真等を使って簡潔に作成する。 必要に応じてページを追加 					

* 本説明資料は公表する場合があります。なお、施工者として支障がある場合は「公表 否」と表示して下さい。

創意工夫・社会性等・工事特性説明書（記載例）

工事名		○○○○○○○工事		受注者名	△△△(株)
項目	種別	細目		内容	
1	創意工夫	リストを参考に記入		□□□□□□□	
2	創意工夫				
3	創意工夫				
4	創意工夫				
5	創意工夫				
6	社会性				
7	社会性				
8	社会性				
9	社会性				
10	工事特性				

1. 創意工夫・社会性等は、実施内容の妥当性確認のため、実施に先立ち「工事打合せ簿」で監督員と協議を行うこと。
2. 項目毎に、様式3-乙「創意工夫・社会性等・工事特性説明資料」を作成すること。

創意工夫・社会性等・工事特性説明資料（記載例）

工 事 名		○○○○○○○工事			
受注者名		△△△(株)		公表の可否*	可
項目	1	種別	創意工夫	細目	リストを参考に記入
内 容		□□□□□□□			
<p>(説 明)</p> <ul style="list-style-type: none"> 説明資料は、内容がわかるように図・写真等を使って簡潔に作成する。 <p>必要に応じてページを追加</p>					

* 本説明資料は公表する場合があります。なお、施工者として支障がある場合は「公表 否」と表示して下さい。

創意工夫・社会性等・工事特性 細目リスト

種 別	細 目
創意工夫	【準備・後片付け関係】
	1. 測量・位置出しにおける工夫
	2. その他：（理由）
	【施工】
	3. 施工に伴う器具、工具、装置等に関する工夫又は設備据付後の試運転調整に関する工夫。
	4. コンクリート二次製品などの代替材の利用に関する工夫。
	5. 土工、地盤改良、橋梁架設、舗装、コンクリート打設等の施工に関する工夫。
	6. 部材並びに機材等の運搬及び吊り方式などの施工方法に関する工夫。
	7. 設備工事における加工や組立等又は電気工事における配線や配管等に関する工夫。
	8. 給排水工事や衛生設備工事等における配管又はポンプ類の凍結防止、配管のつなぎ等に関する工夫。
	9. 照明などの視界の確保に関する工夫。
	10. 仮排水、仮道路、迂回路等の計画的な施工に関する工夫。
	11. 運搬車両、施工機械等に関する工夫。
	12. 支保工、型枠工、足場工、仮架橋、覆工板、山留め等の仮設工に関する工夫。
	13. 盛土の締固度、杭の施工高さ等の管理に関する工夫。
	14. 施工計画書の作成、写真の管理等に関する工夫。
	15. 出来形又は品質の計測、集計、管理図等に関する工夫。
	16. 施工管理ソフト、土量管理システム等の活用に関する工夫。
	17. ICT（情報通信技術）を活用した情報化施工を取り入れた工事。
	18. 特殊な工法や材料を用いた工事。
	19. 優れた技術力又は能力として評価する技術を用いた工事。
	【品質】
	20. 土工、設備、電気の品質向上に関する工夫。
21. コンクリートの材料、打設、養生に関する工夫。	
22. 鉄筋、PCケーブル、コンクリート二次製品等の使用材料に関する工夫。	
23. 配筋、溶接作業等に関する工夫。	

創意工夫・社会性等・工事特性 細目リスト

種 別	細 目
創意工夫	【安全衛生】
	24. 建設業労働災害防止協会が定める指針に基づく安全衛生教育に関する工夫。
	25. 安全を確保するための仮設備等に関する工夫。（落下物、墜落・転落、挟まれ、看板、立入禁止柵、手摺り、足場等）
	26. 安全教育、技術向上講習会、安全パトロール等に関する工夫。
	27. 現場事務所、労務者宿舎等の空間及び設備等に関する工夫。
	28. 有毒ガス並びに可燃ガスの処理及び粉塵防止並びに作業中の換気等に関する工夫。
	29. 一般車両突入時の被害軽減方策又は一般交通の安全確保に関する工夫。
	30. 厳しい作業環境の改善に関する工夫。
	31. 環境保全に関する工夫。
	【その他】
32. その他：（理由）	
社会性等	【地域貢献】
	1. 周辺環境への配慮、生物保護等に積極的に取り組んだ。
	2. 現場事務所や作業現場の環境を周辺地域との景観に合わせるなど、積極的に周辺地域との調和を図った。
	3. 定期的に広報紙の配布や現場見学会等を実施して、積極的に地域とのコミュニケーションを図った。
	4. 道路清掃などを積極的に実施し、地域に貢献した。
	5. 地域が主催するイベントへ積極的に参加し、地域とのコミュニケーションを図った。
	6. 災害時などにおいて、地域への支援又は行政などによる救援活動への積極的な協力を行った。
7. その他：（理由）	
工事特性	－構造物の特殊性への対応－
	【対象構造物の高さ、延長、施工（断）面積、施工深度等の規模が特殊な工事】
	1. 切土の土工量：20万m ³ 以上、盛土の土工量：15万m ³ 以上
	2. 護岸・築堤の平均高さ：10m以上
	3. トンネル（シールド）の直径：8m以上
	4. ダム用水門の設計水深：25m以上
5. 樋門又は樋管の内空断面積：15m ² 以上	

創意工夫・社会性等・工事特性 細目リスト

種 別	細 目
工事特性	6. 揚排水機場の吐出管径：2,000mm以上
	7. 堰又は水門の最大径間長：25m以上、堰又は水門の径間数：3径間以上、堰又は水門の扉体面積：50m ² /門以上
	8. トンネル(開削工法)の開削深さ：20m以上、トンネル(NATM)の内空平均面積：100m ² 以上、トンネル(沈埋工法)の内空平均面積：300m ² 以上
	9. 港湾防波堤、岸壁、海岸堤防、護岸、突堤又は離岸堤の水深：10m以上
	10. 地滑り防止工：幅100m以上かつ法長150m以上
	11. 浚渫工の浚渫土量：100万m ³ 以上
	12. 流路工の計画高水流量：500m ³ 以上
	13. 砂防ダムの堤高：15m以上、ダムの堤高：150m以上
	14. 転流トンネルの流下能力：400m ³ /s以上
	15. 橋梁下部工の高さ：30m以上、橋梁上部工の最大支間長：100m以上
	【対象構造物の形状が複雑であることなどから、施工条件が特に変化する工事】
	16. 砂防工事などにおいて、現地合わせに基づいて再設計が必要な工事。
	17. 鉄道に隣接した橋脚の耐震補強工事又は河道内の流水部における橋脚の撤去工事。
	18. 供用中の道路トンネルの拡幅工事。
	【その他】
	19. その他、構造物固有の難しさへの対応が特に必要な工事
	20. その他、技術固有の難しさへの対応が必要である工事。
	21. 地山強度が低い又は土被りが薄いため、FEM解析などによる検討が必要な工事。
	－都市部等の作業環境、社会条件等への対応－
	【地盤の変形、近接構造物、地中埋設物への影響に配慮する工事】
	22. 供用中の鉄道又は道路と交差する橋梁などの工事。
	23. 市街地等の家屋密集地での、鉄道又は道路をアンダーパスする工事。
	24. 監視などの結果に基づき、工法の変更を行った工事。
	【周辺環境条件により、作業条件、工程等に大きな影響を受ける工事】
	25. ガス管、水道管、電話線等の支障物件の移設について、施工工程の管理に特に注意を要した工事。

創意工夫・社会性等・工事特性 細目リスト

種 別	細 目
工事特性	26. 地元調整や環境対策などの制約が特に多い工事。
	27. そのほか各種制約があり、施工に特に厳しい制限を受けた工事。
	【周辺住民等に対する騒音・振動を特に配慮する工事】
	28. 市街地での夜間工事。
	29. D I D地区での工事。
	【現道上での交通規制に大きく影響する工事】
	30. 日交通量が概ね1万台以上の道路で片側交互通行の交通規制をした工事。
	31. 供用している自動車専用道路等の路上工事で、交通規制が必要な工事。
	32. 工事期間中の大半にわたって、交通開放を行うため規制標識の設置撤去を日々行った工事。
	【緊急時に対応が特に必要な工事】
	33. 緊急時の作業があり、その作業の全てに対応した工事。
	【施工箇所が広範囲にわたる工事】
	34. 作業現場が広範囲に分布している工事。
	【その他】
	35. 施工ヤードの広さや高さに制限があり、機械の使用など施工に制約を受けた工事。
	36. その他、周辺環境又は社会条件への対応が特に必要な工事。
	－厳しい自然・地盤条件への対応－
	【特殊な地盤条件への対応が必要な工事】
	37. 河川内の橋脚工事において地下水位が高く、ウェルポイント工法などによる排水や大規模な山留めなどが必要な工事。
	38. 支持地盤の形状が複雑なため、深礎杭基礎毎に地質調査を実施するなど支持地盤を確認しながら再設計した工事。
	39. 施工不可能日が多いことから、施工機械の稼働率や台数などを的確に把握する必要が生じた工事。
【雨・雪・風・気温・波浪等の自然条件の影響が大きな工事】	
40. 港湾、海岸又は河川区域内のため、設計書で計上する以上に波浪等の影響で不稼働日が多く、主に作業船や台船を使用する工事。	
41. 潜水夫を多用した工事又は波浪や水位変動が大きいため作業構台等を設置した工事。	
【急峻な地形及び土石流危険渓流内での工事】	

創意工夫・社会性等・工事特性 細目リスト

種 別	細 目
工事特性	42. 急峻な地形のため、作業構台や作業床の設置が制限される工事。もしくは、命綱を使用する必要があった工事（法面工は除く）。
	43. 斜面上又は急峻な地形直下での工事のため、工事に伴う地滑り防止対策等の安全対策を必要とした工事。
	44. 土石流危険渓流に指定された区域内における工事
	【動植物等の自然環境の保全に特に配慮しなければならない工事】
	45. イヌワシ等の猛禽類などの貴重な動植物への配慮のため、工程や施工方法に制約を受けた工事
	【その他】
	46. その他、自然条件又は地盤条件への対応が必要であった工事。
	47. その他、災害等における臨機の措置のうち特に評価すべき事項が認められる工事
	－長期工事における安全確保への対応－
	48. 12ヶ月を超える工期で、事故がなく完成した工事（全面一時中止期間は除く）
49. その他	